

好きな道こそ

先月、またなつかしい卒塾生が会いに来てくれました。大学4年生で、この春から就活を始めていた女の子と、この春に大学進学したその弟君です。もちろん二人とも卒塾生。「就職が決まりました！弟も無事大学生になりました。」という、うれしい報告に来てくれたのでした。

中学生の頃から魚が大好きだった彼女は、水族館に勤めることが夢でした。高校は地元の春日井東高校に進学。31の内申で、高蔵寺高校にも合格できたかもしれませんが、「〇〇ちゃんはこちらで上位にいる方がきっと余裕のある高校生活を送れるよ。」という私のアドバイスを素直に聞き入れてくれました。「どうしているかな。」と心配していた私に、彼女から高2の終わり頃チョコと一通の手紙が来たのです。こんな内容でした。

「こんばんは！バレンタインなので生チョコとチーズケーキを作りました。味の保証はできませんが、食べてもらえると嬉しいです！冬休み明けのテストは、クラス7位。でも学年全体で10位でした……。次で2年のラストテストなので全力で勉強します、いや、してます！そして、今は環境に興味が出てきたので水族館はやめて大学の環境科に入る予定です。あ、速報です！！なんと彼氏ができました（笑）。朝、たまに一緒に自転車で登校します。自転車に乗る時は気をつけてます！心配してもらっているので安心してほしいです。これからも気をつけるので大丈夫です！朝見かける川辺のヌートリアに癒やされています。言いたいことがたくさんあって、文章がまとまってないです。ごめんなさい。でも、とりあえず、毎日楽しく元気に過ごしているので心配しないでください！先生も元気でいてくださいっ！また会いに行きます！」と。文章からあふれ出る、高校生活を楽しんでいる様子に心から私は安心したのでした。

あれから4年半。宣言していた通り大学の応用化学科のバイオ環境科学科の4年生となって、企業からも内定をいただいたという彼女は、明るさと、培養している菌に名前をつけるという生き物好きはそのままに、すっかり素敵な女性に成長していました。就職先は岐阜県で蜂蜜を扱っている立派な会社。そこでバイオ研究の力を生かした仕事に携われると、目を輝かせていました。そして、わずかな席を、自分より上の大学に通う人たちとの競争に勝ち抜いてつかなかったのだと、はじける笑顔で言ってくれました。常に自分の今の生活を前向きに楽しみ、好きな生き物に生涯関わろうと、まっすぐ進路を決めた彼女。彼女を見ていると、“高校の名前も大学の名前も関係ないな。好きな道に進もうとする情熱を持ち続けて進めるかどうかだなあ。”と思えます。ガンダム好きの弟君、彼は一体どんな道に進むのか、これから楽しみです。